

《夢プロ④》

当会と名立地区公民館の連携事業として進行中の「なだち再発見・演劇プロジェクト 夢輝いて！」(以下、「夢プロ」)は現在、来秋の演劇公演に向けて出演者やスタッフの募集中ですが…なかなか芳しくありません。

演劇…と聞けば誰だって(?)「私にはできんわね…」と思われるのも無理のないことで、正直、このままでは計画変更を考えなくてはいけないかもしれません。

ということで、今回は「最後のお願い」です。

出演者とかスタッフとか、そうしたことはひとまず置いて、竹田勘兵衛及び竹田用水を通じ、名立の歴史・文化を学びたい方や興味のある方、そして、こうした住民参加型の取組みに関わってみたい方はどうぞ事務局までお気軽にお知らせください。



平成8年いろり座公演「夢輝いて」より

《2021 初冬・名立まちかどニュース》

□初冬の風物詩・サケ漁始まる



今年も名立川のサケ漁が始まりました。

例年のように、木で作った「ウライ」と呼ばれる柵に追い込む方法と投網を打つ2つの方法で行われていて、今年は水揚げ量が少ないと聞いていましたが、この日(11月16日)は“豊漁”で、投網を打つたびに大きなサケが数匹も入り、川から揚げるのにも2、3人がかりでした。

今年も残念ながらサケまつりは中止になりましたが、長い“海洋暮らし”から“生まれ故郷”に帰り、力を振りしぼって遡上するサケの姿や名立の初冬の風物詩であるサケ漁をぜひご覧になってください。



投網2態…左はハート型に見えますね

【編集・発行】名立まちづくり協議会 会長 三浦 元二

上越市名立区名立大町 200-1(名立地区公民館内)

担当:金子 僚子、石井 三千代

☎:025-537-2182 FAX:025-546-7041 ✉:matikyo-nadati@bz04.plala.or.jp

名立まちづくり協議会 会報 まち協だより

2021年11月25日発行

No.19【小雪号】



名立に初冬の到来を告げる名立川でのサケ漁が始まり、カモメも欄干の上からのんびりと高みの見物です。

二十四節気では22日から小雪を迎えており、本格的な寒さもそんなに遠くないのかもしれませんがね。

さてさて、今年はどうな冬になるのでしょうか…。

《2021 年下半期の取り組み》

11月下旬にもなつて“下半期の取り組み”もないものですが、来年3月までの当会の新たな取り組みについてお知らせします。



□名立まちづくり会議の開催

11月5日(金)、名立区総合事務所に名立区総合事務所長、名立区地域協議会長、名立商工会長、名立区住民福祉会長からお集まりいただき、第1回名立まちづくり会議(以下、「会議」)を開催しました。

これは昨年度策定した名立まちづくり計画の実効性を高めていくためと名立区が直面する喫緊の課題や中長期的なまちづくりに関する意見交換・情報交換の場として当会が提案したものです。

今回は初めての会議ということで個別テーマに関するのではなく、参加団体や地域全体の現状や課題等についてお話をいただきました。

今後もしできれば4半期ごとに開催し、情報交換や課題の共通認識を図りながら、「だれもが安心して暮らせる」まちづくりに取り組んでいきたいと考えています。



□名立まつり検討委員会の開催

昨年と今年、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった名立まつりの今後について検討していくための第1回名立まつり検討委員会(以下、「委員会」)を11月15日(月)に開催しました。



昭和時代の名立まつり

～民謡流し～

した。

名立まつりは昭和53年(1978年)にそれまで実施されていた商工祭を廃止し、それにかわって「全町民がこぞって参加し、町民の交流を深めるとともに、豊作と豊漁を祈念するまつり」という趣旨のもと、町内各種団体の協力を得て計画・実施されて以来、令和元(2019)年まで42回を数える名立町・区の夏のイベントとして実施されてきました。

しかし、昨年と今年新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止となり、その代替事業として昨年は千羽鶴プロジェクトを、そして今年には七夕・名立の夏まつり・聖火リレージョイントイベントを実施しま

その後、新型コロナウイルス感染症は感染者数の減少傾向といった明るい兆しは増えてきてはいるものの、依然として終息が見込めない状況にあることに変わりはなく、私たちの日常生活に「新しい生活様式」といった新たな暮らし方が求められていると同じように、名立まつりについてもこれまでの内容や形態等の見直しが必要と考えています。

加えて、第1回から顧みれば、昭和～平成～令和といった時代の流れとともに名立まつりを取り囲む社会環境や地域状況等も大きく変わってきています。

そこで、これまで名立まつりに関わってきた関係団体や今後の名立のまちづくりを担う若い世代や女性たちの参画を得て、今後の名立まつりのあり方について抜本的に検討していくために委員会を設置(事務局:名立まちづくり協議会)したものです。



令和元年の名立まつり
～中学生による神輿～

第1回委員会では19団体22人からお集まりいただき、今年の代替事業の報告を行った後、「今後の名立まつりのあり方」について検討するためのアンケートの実施(案)について提案させていただきました。

名立まつりに関するアンケートは今年の3月にも全町内会長や関係者等に対してお願いしましたが、その後の新型コロナウイルス感染症の状況に変化があったことやアンケート対象者に若い世代を加えたいということから再度のアンケートを実施するものです。

参加された委員からはこれ

まで実施されてきた名立まつりへの思いが語られたほか、コロナ禍でも実施できるような見直しや工夫をして継続してもらいたいなどのご意見をいただきました。

今後は12月末までのアンケート結果を踏まえながら、委員会で検討を重ねていき、来年3月末までには今後の名立まつりのあり方について一定の方向性をまとめていきたいと考えていますので、みなさんからもご意見、ご要望などがありましたら当会事務局までお知らせください。

《名立まちづくり協議会のNPO法人化に向けて②》「なぜ今、NPO法人化なのか？」

先月号から4回連続で『名立まちづくり協議会のNPO法人化についてみなさんと考えていきたい』シリーズの2回目は「なぜ今、NPO法人化なのか？」です。

一般的にNPO法人化のメリットとしては

- ①団体が資産を持てる
- ②公共事業への参加が容易になる
- ③社会的信用が高まる などが挙げられています。

①については、名立まちづくり協議会は任意の住民組織であることから、団体名義の資産は保有できず、例えば車両は会長個人名での登録となっています。

②と③については関連がありますが、これまでご説明しているように、当会の収入の約3/4が上越市等からの委託料になっていますが、今後もこうした委託事業を継続的に受託していくためにも、また、新たな委託

事業があった場合の受託先として選定されるためにも、公的な認証を受けたNPO法人格を有することが欠かせないものと考えられます。

このことは近年NPO法人格を取得したある区の住民組織にお伺いした際に、NPO法人化取得以降に新たな委託事業を公共団体から受託した実績があり、その背景にはNPO法人化が大きく影響したものと認識を示されていました。

コロナ禍も含め、今後の経済状況や地域社会がどのような展開を見せていくかは不透明な部分が多いと思われそうですが、そうした状況の中でも(だからこそ)当会が継続的かつ安定的にまちづくり活動を進めていくことができるために、今(!)、こうした組織体制や環境整備を行っておく必要があると考えています。



上越市委託事業 はつらつ健康教室

《外出支援事業～寒さに振えながらコスモスを見てきました～》

11月10日(水)、関川の河川敷で満開のコスモスを鑑賞してきました。

当日は強風と小雨のためゆっくりと散策…とはいきませんでした。普通のコスモスより背丈の低い、ちょっと“季節外れ”のコスモスを楽しまれました。

その後、スーパーマーケットで買い物をしていただき、五智歴史の里会館の休憩コーナーでお茶とおしゃべりを楽しんだ後、帰路につきました。

次回は12月22日(水)を予定しています。

車の運転ができない方や公共交通機関の利用が困難な方で外出支援を利用されたい方は、当会事務局までお問い合わせください。



コスモスを背景にハイチーズ☆

《地域支え合い事業～公民館まつりで作品発表～》

地域支え合い事業は毎週月・木曜日に「すこやかサロン」、毎週火曜日に「はつらつ健康教室」、毎月第3水曜日に「ほんわかカフェ」を開催しており、おおむね40名の方にご参加いただいています。

「すこやかサロン」では軽体操やスカットボールのほか、ぬり絵や折紙など自由活動を楽しんでいただき、「はつらつ健康教室」では講師の指導のもと、ストレッチや全身の筋肉を動かす体操や脳トレで運動機能向上を目指しています。



すこやかサロン (体操の様子)

「ほんわかカフェ」では‘認知症’について話しを聞いたり、認知機能、運動機能の低下を予防するための運動を取り入れ、楽しく過ごしていただいています。

どの事業もおおむね65歳以上の方が対象ですので、お気軽に参加してみませんか。

上記写真は、11月6・7日に開催された‘公民館まつり’で展示された、すこやかサロンに参加されている皆さんの作品です。

個性あふれる顔のリスやもみじ・どんぐりなどの折紙を貼り付けた秋満載のリースが飾られました。

